



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2008年5月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

## ～ '07 神通研集会報告⑦～

### 「災害」への取り組み

～県域（神奈川県内の川崎市、横浜市以外の市町村）～

神奈川県手話サークル連絡協議会（県サ連）

神聴協（神奈川県聴覚障害者協会）と県サ連とで取り組みを行っている。

H17、テーマを「防災について語り合おう～今、私たちに出来ることは何?～」とし、意見交換を行った。その中で、阪神・淡路大震災の時、電気が回復していない夜間の道を聴覚障害者が徒歩で移動するときの危険回避のために神戸のライオンズクラブから「スズランアームバンド」が寄贈された話が紹介され、県サ連にも頂くことができ、神聴協 会員優先で配布した。

H18は「災害における聴覚障害者支援について」をテーマに、新潟県のろう協・サ連の方をお迎えし、講演会を行った。

H19は災害時の「情提」の役割についてお話しして頂いた。また、県内の積極的に活動している地域からの報告もあった。

県サ連としては、県域全体の取り組みとして進めていくことは難しいが、各市町村に働きかけていく際の参考として情報交換を行っている。

## ～ 定例会 ～

4/26（土）、定例会を開催しました。

集会に向けて、内容を検討。

「災害」に関しては、昨年からの動きを報告していただきます。

また、サークル運営がうまくいっているサークルは、会員同士のコミュニケーションがうまく取れているようです。考え方の違いや不満を感じた時には、意見として出す。それには、意見を出しやすいサークルであること。では、意見の出しやすいサークルとは?意見の違いを調整する方法とは?より良い交流を目指して、サークルでのコミュニケーションの方法に焦点を当ててみます。

【次回定例会】5/18（日）13:10～15:00

県民活動サポートセンター 707

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

旅行会社企画「東海道五十三次歩こう」に申込んだ。

日本橋スタート、現在大磯まで歩いた。日本橋～品川、品川～川崎、川崎～東神奈川、東神奈川～保土ヶ谷・・・と1回10キロ位を日を替えて歩く。現在8回歩き、次は大磯～国府津までの予定。目的地は京都三条大橋。五十三次だが全部で57回歩く。いつになったら京都に着くのか?2、3年かかるとのこと。

参加者は年配の方が多いか歩くの速い。付いていくのが大変。運動不足を実感。まだスタートしたばかりなのに・・・

ポチたま